

イー・カムトゥルー (3693)

2018/12 通期は営業赤字に転落、2019/12 通期は黒字転換する見通し

TOKYO PRO Market | アプリケーションソフトウェア | 業績フォロー

BLOOMBERG 3693 JP | REUTERS 3693.T

- 2018/12 通期は、売上高が前期比 24.1%増の 4.16 億円、営業利益が▲1,949 万円、当期利益が▲3,239 万円とそれぞれ前期の 1,711 万円、1,508 万円から赤字転落。
- 新たに開始したチェーン店向け内装工事事業が寄与し増収は確保したものの、メイン事業の SaaS 型店舗管理システム事業は一部ユーザー企業の自社開発システムへの移行の影響により想定を下回った。売上原価や販管費の増加も響き、営業損益段階から赤字となった。
- 2019/12 通期会社計画は、売上高が前期比 3.7%増の 4.31 億円、営業利益は 1,800 万円、当期利益が 1,200 万円と黒字転換する見通し。

What is the news?

2018/12通期は、売上高が前期比24.1%増の4.16億円、営業利益が▲1,949万円、当期利益が▲3,239万円とそれぞれ前期の1,711万円、1,508万円から赤字転落。当初の会社計画では、売上高4.62億、営業利益4,200万円、当期利益3,300万円を見込んでいた。新たに開始したチェーン店向け内装工事事業が収益寄与し増収を確保。ただ、SaaS型店舗管理システム事業が一部ユーザー企業による自社開発システムへの移行に伴い大きく想定を下回ったほか、FC本部支援事業も想定を下回った。費用面では売上原価が同46.3%増の2.94億円となったほか、給与手当や法定福利費などの増加により販売費および一般管理費が同20.9%増の1.41億円と膨らみ、営業損益段階から赤字となった。2017年より開発に着手しているSaaS型店舗管理システムの次世代システム（勤怠管理システム・売上管理システム）が2019/12期中の完成見込みとなったことに伴い、一部の使用見込みのなくなったソフトウェアで計上した減損損失の1,058万円も響いた。

セグメント別の業績は以下の通り。「Win-Board.biz」をメインとする①SaaS型店舗管理システム事業は、売上高が同18.4%減の2.10億円、セグメント利益が同24.4%減の6,892万円。システムエンジニアの派遣を行う労働者派遣事業、チェーン店向け内装工事事業、FC本部支援事業、連結子会社イーカム・ワークスが手掛けるマーケティング支援事業などを包括する②その他事業は、売上高が同2.6倍の2.06億円、セグメント利益が▲2,377万円と前期の▲1,545万円から赤字幅拡大。（※セグメント調整額が売上高で▲560万円、セグメント損益で▲6,464万円生じている。）

How do we view this?

2019/12通期会社計画は、売上高が前期比3.7%増の4.31億円、営業利益は1,800万円、当期利益が1,200万円と黒字転換を見込む。中途技術者の採用を強化するほか、SaaS型店舗管理システム事業を推進し業績向上に努めていく方針。MM総研によると、同社が事業を行う国内クラウドサービス市場は2021年度までの年平均成長率は、20.6%となる見込み。2018年度に2兆1,289億円、2020年度に3兆2,063億円に成長すると予測している。

業績推移

事業年度	2014/12	2015/12	2016/12	2017/12	2018/12	2019/12F
売上高(千円)	332,613	319,952	331,313	335,427	416,390	431,000
経常利益(千円)	4,641	-10,886	15,019	17,512	-21,057	14,000
当期利益(千円)	5,046	-11,646	12,431	15,085	-32,397	12,000
EPS (円)	8.16	-17.08	17.23	20.88	-44.83	16.88
PER (倍)	44.12	-	20.89	17.24	-	21.33
BPS (円)	65.43	79.45	97.76	118.64	73.81	-
PBR (倍)	5.50	4.53	3.68	3.03	4.88	-
配当 (円)	-	-	-	-	-	-
配当利回り (%)	-	-	-	-	-	-

(※) 2014/3/10にで普通株式1株につき100株の株式分割を行っているが、2014/12期の期首に当該株式分割が行われたと仮定してEPS、BPS、1株当たり配当を算定、Fは会社計画 (出所: 会社公表資料をもとにフィリップ証券作成)

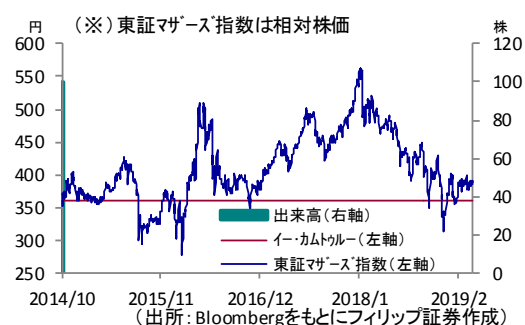
配当予想(円) - (会社計画)
 株価(円) 360 2019/4/22(基準値)

会社概要

2000/5に札幌市において、情報処理システムのコンサルティングを目的として設立。2003/8にSaaS(※)型企業ポータルサービスを開始した。SaaS型店舗管理システム事業、労働者派遣事業、チェーン店向け内装工事事業、FC本部支援事業、ベトナム人材アテンド事業を展開するほか、連結子会社イーカム・ワークスが顧客企業の集客活動を支援するマーケティング支援事業を行っている。同社は、「Win-Board.biz」というサービス名で自社開発のSaaS型店舗管理システムの提供を主たる事業としており、自社システムの開発・カスタマイズ、タブレット端末を使ったPOSシステムおよびオーダーエントリーシステムの提供、それに伴うハードウェアの販売まで手掛ける。ITソリューションのニーズが有りながらも、高額な初期投資や専門知識のあるシステム担当者の配置が困難な中小企業・ベンチャー企業はもとより、多店舗展開を図る事業者をターゲットとして営業している。2014/10にTOKYO PRO Marketへ上場した。

(※) SaaS(Software as a Service)とは、ソフトウェアをユーザー側に導入するのではなく、ベンダー(プロバイダー)側で稼働し、ソフトウェアの機能をユーザーがネットワーク経由で活用する形態を指す。

企業データ



主要株主(2018/12/31) (%)
 1. 株式会社EGS (注) 27.03
 2. ジェイウィング・キャピタル株式会社 13.84
 3. 浅田一憲 10.38
 (注) 特別利害関係者等(同社代表取締役社長が取締役を兼任する会社)
 (出所: 会社公表資料をもとにフィリップ証券作成)

アナリスト

増淵 透吾

togo.masubuchi@phillip.co.jp
 +81 3 3666 0707

笹木 和弘

+81 3 3666 6980
 kazuhito.sasaki@phillip.co.jp

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL: 03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: フィリップ証券 リサーチ部

公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員補 増淵透吾

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

＜日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則(平14.1.25)」に基づく告知事項＞

1. 本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。
2. 当社は、東京証券取引所の定める「特定上場有価証券に関する上場規程の特例」(以下「特例」)第102条の規定に基づき、発行会社の担当J-Adviserに就任する旨の契約を締結いたしております。また、当社は、「特例」第135条に定める流動性プロバイダーであり、発行会社株式の円滑な流通の確保に努めるほか、流動性プロバイダーとしての義務を負っております。